

## 第2部 環境目標及び環境活動計画・実績・見直し

### 第1章 環境目標及び環境活動計画

本市の地球温暖化防止に向けた目標は、「八千代市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」（以下、「実行計画」）において、温室効果ガス（二酸化炭素）総排出量を、5年間で2,325 t-CO<sub>2</sub>（平成27年度（2015年度）比5%）以上削減することを掲げています。

そこで、温室効果ガス削減に向けた各使用量等の目標値を、表4のとおり設定し、目標達成に向け、全部署で率先的に環境保全行動を行うため、表5のとおり年間計画を設定しました。なお、上下水道局等で使用する化学物質については、安全・衛生管理上、必要不可欠であることから、目標値の設定から除外しています。

表4 温室効果ガス削減に向けた目標値

項目	基準年度 平成 27 年度 (2015 年度)	単年度目標 平成 28～令和元年度 (2016～2019 年度)	目標年度 令和 2 年度 (2020 年度)
エネルギー等使用量			
電 気 (PPS 含む) (kWh)	41, 059, 169	各年基準年度比 1 %削減	39, 006 千
ガソリン (ℓ)	117, 630		111 千
灯 油 (ℓ)	53, 384		50 千
軽 油 (ℓ)	61, 645		58 千
A 重油 (ℓ)	235, 386		223 千
L P G (m³)	8, 251		7 千
都市ガス (m³)	1, 222, 516		1, 161 千
一般廃棄物焼却量 (t)	45, 933		43 千
水道使用量 (m³)	514, 597	現状維持	514 千
コピー用紙使用量 (枚)	27, 031, 180		27, 031 千
廃棄物量(庁舎関係)(kg)	883, 278		883 千
グリーン購入の推進	94 %	各品目購入率 100%	
温室効果ガス（二酸化炭素）総排出量 「実行計画」より抜粋			
二酸化炭素	46, 509 t-CO <sub>2</sub>	各年基準年度比 1 %分の 二酸化炭素を削減	5 年間で削減 2, 325 t-CO <sub>2</sub> 削減
その他			
再生可能エネルギー・省エネルギー 設備の導入の推進	施設の利用状況に併せて実施		
各業務における取り組み	全 体：実行計画における 28 の取組項目（13 ページ）から単年度ごとに設定 各所属：単年度ごとに個別に設定		

温室効果ガスの目標値の算定には11ページ「温室効果ガス排出量の算定に関する排出係数」の平成27年度を用いており、各年度の報告においては、同ページの当該年度排出係数による算出で評価します。

表5 エコアクション21に係る年間計画

名称	対象	実施予定時期
環境推進担当者選任	全部署各1名選任	4月
環境推進担当者研修	環境推進担当者	
前年度末エネルギー調査	全部署	5月
上半期エネルギー調査	全部署	10月
内部環境監査員研修	内部環境監査員・内部環境監査員候補者	11月
内部環境監査	前回審査関連部署 他	1月
エコアクション21審査	審査関連部署	1月

## 第2章 環境目標の実績及び評価

### 1 自らの環境負荷を低減させる取り組み

#### (1) エネルギー等利用状況調査結果報告

表6 エネルギー等利用実績

年 度 項 目		平成 27 年度	令和元年度	令和 2 年度		
		実績値 (基準値)	実績値	目標値	実績値	達成率 (100%以上で達成)
電気使用量(PPS 含む) (kWh)		41,059,169	40,940,109	39,006,211	40,147,529	97.1 %
燃料使用量	ガソリン (ℓ)	117,630	108,844	111,748	88,814	120.5 %
	灯 油 (ℓ)	53,384	41,276	50,715	17,311	165.9 %
	軽 油 (ℓ)	61,645	57,366	58,562	55,250	105.7 %
	A 重油 (ℓ)	235,386	212,591	223,617	225,189	99.3 %
	L P G (m³)	8,251	6,958	7,838	5,032	135.8 %
	都市ガス (m³)	1,222,516	1,156,092	1,161,390	1,457,180	74.5 %
一般廃棄物焼却量 (t)		45,933	47,824	43,636	48,932	87.9 %
水道使用量 (m³)		514,597	422,284	514,597	332,640	135.4 %
コピー用紙使用量 (枚)		27,031,180	27,144,747	27,031,180	28,466,724	94.7 %
廃棄物量(庁舎関係※) (kg)		883,278	464,782	883,278	529,675	140.0 %

※市役所が事業所として排出する廃棄物量



図2-1 項目別エネルギー等利用実績



図 2-2 項目別エネルギー等利用実績

### 考察

令和 2 年度は前年度と比較し、小・中学校におけるエアコンの使用により都市ガスの使用量増加がみられましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、小・中学校、各公共施設における休業や業務縮小により、電気、ガソリン、灯油、水道等エネルギー使用量が全体的に減少していました。

目標年度である令和 2 年度を終え、エコドライブの推進、本庁舎等でのノー残業デーの完全実施、節水機器の導入、LED 照明等の省エネ化、廃プラスチックや資源物の分別収集の徹底等のエコアクション 21 を活用した取組により職員意識の更なる向上も見られ、ガソリン、灯油、軽油、LPG、水道、廃棄物量（庁舎関係）の 6 項目において目標を達成しました。

## (2) 温室効果ガス排出量

表7 令和2年度 温室効果ガス排出量内訳※1

温室効果ガス名	発生要因／二酸化炭素 (CO <sub>2</sub> ) 換算量(kg-CO <sub>2</sub> )				計(kg-CO <sub>2</sub> )
		H27(基準値)※2【割合】	R2(実績値)【割合】	基準年度比	
二酸化炭素 (CO <sub>2</sub> )	電気使用量(PPS 含む)	20,057,841【43.2%】	17,581,760【36.2%】	-12.3%	H27(基準値) 46,463,413
	燃料使用量				
	ガソリン	273,101【0.6%】	206,199【0.4%】	-24.5%	R2(実績値) 48,542,532 (基準年度比 +4.5%)
	灯油	132,899【0.3%】	43,096【0.1%】	-67.6%	
	軽油	159,352【0.3%】	142,821【0.3%】	-10.4%	
	A重油	637,802【1.4%】	610,172【1.3%】	-4.3%	
	LPG	51,220【0.1%】	31,237【0.1%】	-39.0%	
	都市ガス	2,731,101【5.9%】	3,255,340【6.7%】	+19.2%	
	小計	24,043,316【51.7%】	21,870,625【45.1%】	-9.0%	
	一般廃棄物焼却量	22,420,097【48.3%】	26,671,905【54.9%】	+19.0%	
メタン (CH <sub>4</sub> )	自動車の走行	294	275		1,437
	一般廃棄物焼却	924	1,162		
一酸化二窒素 (N <sub>2</sub> O)	自動車の走行	6,820	5,066		831,850
	一般廃棄物焼却	807,240	826,784		
ハイドロフルオロカーボン (HFC)	自動車使用及び廃棄	11,700	2,384		2,384
温室効果ガス総排出量					49,378,203

※1 小数点以下第1位を四捨五入した値で表記しています。

※2 計画策定時より見直しを行い、一部を修正しています。

表8 温室効果ガス(二酸化炭素)総排出量の達成状況

削減目標量 (平成27年度比5%)	各年度削減量					目標年度 令和2年度までの 削減量計
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
2,325 t-CO <sub>2</sub>	1,849 t-CO <sub>2</sub>	-972 t-CO <sub>2</sub>	-3,823 t-CO <sub>2</sub>	-2,097 t-CO <sub>2</sub>	-2,034 t-CO <sub>2</sub>	-7,077 t-CO <sub>2</sub>

### 考察

令和2年度の温室効果ガス(二酸化炭素)総排出量は48,543t-CO<sub>2</sub>となり、基準年度と比較すると約4.5%の増加となりました。発生要因別に比較すると、電気・燃料等エネルギー使用を起源としたCO<sub>2</sub>排出量は21,871t-CO<sub>2</sub>であり、基準年度と比較すると約9.0%減少しています。

一方で、一般廃棄物焼却量を起源としたCO<sub>2</sub>排出量は総排出量の5割以上を占める26,672t-CO<sub>2</sub>であり、基準年度と比較すると約19.0%増加しています。

削減目標量である2,325t-CO<sub>2</sub>は、人口増加や平成29年3月に清掃センターの焼却処理施設基幹的設備等改良工事が完了したこと等により一般焼却量が増加する等、一般廃棄物焼却量を起源としたCO<sub>2</sub>排出量が大きく増加したため未達成となりました。温室効果ガスの削減のため、一般廃棄物の更なる減量が求められることから、4R活動の推進が必要となっています。

## (3) グリーン購入の推進

表9 八千代市グリーン購入適合調達率 ※1

(単位: %)

年度	品目	紙類	文具・事務用品	OA機器類※2			照明	自動車等	全体
					画像機器等	電子計算機			
H27		93	93	95	-	-	78	100	94
H28		96	91	92	-	-	67	100	93
H29		97	84	83	-	-	70	-	90
H30		96	75	-	90	100	85	-	90
R1		96	79	-	86	94	73	0	90
R2		93	85	-	84	80	66	100	90

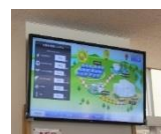
※1 平成30年度から調査対象品目を5分野31品目から6分野113品目に拡大し、実績額から調達率を算出しています。

※2 OA機器類は、平成30年度の改定に伴い、画像機器等及び電子計算機に細分化しました。

## (4) 再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入

### ●太陽光発電設備設置施設

萱田浄水場 (20 kW), 睦浄水場 (20 kW),  
八千代市民会館 (10 kW),  
総合生涯学習プラザ・萱田南小学校 (4 kW),  
萱田小学校 (10 kW), 八千代台東小学校 (10 kW),  
八千代中学校 (10 kW), 西八千代調理場 (5 kW),  
市内小中学校等避難場所標識 (6 W) 41ヶ所



屋上太陽光の発電量を  
昇降口のモニターで確認  
(八千代台東小)



オーエンス八千代市民ギャラリー

### ●雨水利用設備設置施設 (雨水を中水としてトイレ, 洗車等に再利用)

睦分署 (3 m<sup>3</sup>), 緑が丘公民館 (38 m<sup>3</sup>),  
総合生涯学習プラザ・萱田南小学校 (175 m<sup>3</sup>), 消防本部庁舎 (1,500 m<sup>3</sup>)

### ●その他

- 1 マイクロ水力発電 (3 kW)・太陽光発電設備 (10 kW)・風力発電 (2 kW): 清掃センター
- 2 太陽熱利用: TRC 八千代中央図書館及びオーエンス八千代市民ギャラリー※, 東消防署  
※太陽熱に加え, 自然採光, 自然通風, 高効率設備機器を採用するなど, 節電・自然エネルギー活用型建築になっています。
- 3 LED: 公園灯, 市道防犯灯, 自転車駐車場, 道路照明, 公共施設の一部等
- 4 次世代自動車: 電気自動車「e-NV200」を日産自動車㈱より平成 28 年度から 3 年間, 無償貸与を受けられることとなり, 公用車として運用しました。蓄電・給電機能を活かし, 屋外でのイベントなどで活用しました。また, ハイブリット自動車を 2 台 公用車として導入しています。

## (5) 業務における取り組み

環境への取り組みを推進するため, 毎年度, 市全体の環境目標と部署ごとの業務に則した独自の環境活動目標をそれぞれ設定し, 達成に向けた取り組みを実施しています。

全 体: COOL CHOICE (クールチョイス)「賢い選択」運動について広報やちよやチラシ, ポスター等を通じて周知しました。また, 職員によるごみの分別収集の推進及び用紙類使用量の削減について, 取り組みました。

各所属: 各所属の取り組みについては, 「第 4 部 各所属における環境活動目標と達成状況の自己評価」P21 に掲載しています。各目標項目の達成状況は以下のとおりです。

表 10 環境活動目標の達成状況

目標項目	目標 設定数	評価※				
		A	B	C	D	—
グリーン購入の推進 (共通目標)	161	55.9%	25.5%	8.1%	1.2%	9.3%
環境保全行動 (環境学習) の啓発	31	67.7%	16.1%	9.7%	6.5%	0.0%
施設の適正管理 (維持管理・改修)	41	68.3%	17.1%	14.6%	0.0%	0.0%
ゴミ排出量の削減	49	85.7%	12.2%	2.0%	0.0%	0.0%
業務の効率化・平準化	14	64.3%	21.4%	14.3%	0.0%	0.0%
用紙使用量削減	36	55.6%	27.8%	13.9%	2.8%	0.0%
エコドライブの推進	4	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
防災・防犯意識向上の推進	8	37.5%	12.5%	0.0%	37.5%	12.5%
その他	12	66.7%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%
計	356	62.9%	21.3%	8.4%	2.8%	4.5%

※A…100～80%, B… 80～50%, C …50～20%, D… 20%未満 — …判断ができないもの

## 2 参考資料

### (1) 温室効果ガス排出量の算定に関する排出係数

#### ①二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>)

		平成 27 年度		令和元年度		令和 2 年度	
電気 [kg-CO <sub>2</sub> /kWh] ※1		実排出	調整後	実排出	調整後	基礎	調整後
東京電力エナジーパートナー(株)		0.505	0.496	0.468	0.455	0.457	0.442
PPS	丸紅新電力(株) (旧：丸紅(株))	0.482	0.487	－	－	－	－
	(株)F-Power	0.454	0.398	－	－	－	－
	ミツロコ* リーンエネキ* (株)	0.466	0.498	－	－	－	－
	リエスパ* ワー(株)	0.582	0.000	0.503	0.000	0.445	0.000
	千葉電力(株)	－	－	0.538	0.527	0.469	0.431
	九電みらいエナジー(株)	－	－	0.465	0.424	0.417	0.389
	(株)エネット	－	－	－	－	0.391	0.409
燃 料	ガソリン [kg CO <sub>2</sub> /ℓ]	2.3217					
	灯油 [kg CO <sub>2</sub> /ℓ]	2.4895					
	軽油 [kg CO <sub>2</sub> /ℓ]	2.5850					
	A 重油 [kg CO <sub>2</sub> /ℓ]	2.7096					
	LPG [kg CO <sub>2</sub> /kg] / [kg CO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup> ] ※2	2.9989 / 6.20772					
	都市ガス [kg CO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup> ]	2.2340					
一般廃棄物の焼却 [kg CO <sub>2</sub> /t] / [kg CH <sub>4</sub> /t] / [kg N <sub>2</sub> O/t]		2765 / 9.5×10 <sup>-4</sup> / 5.67×10 <sup>-2</sup>					

※1 基礎排出係数は、実行計画及び算定・報告・公表制度で使用しており、調整後排出係数は、算定・報告・公表制度で使用して計算しています。

※2 LPG の使用量は体積(m<sup>3</sup>)を把握しているため、1 m<sup>3</sup>=2.07kg として重量換算しています。

#### ②二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) 以外

自動車の走行量 [kg CH <sub>4</sub> /km] / [kg N <sub>2</sub> O/km]		メタン	一酸化二窒素
ガソリン・LPG/乗用車		1.0×10 <sup>-5</sup>	2.9×10 <sup>-5</sup>
ガ ソ リ ン	バス	3.5×10 <sup>-5</sup>	4.1×10 <sup>-5</sup>
	軽自動車	1.0×10 <sup>-5</sup>	2.2×10 <sup>-5</sup>
	普通貨物車	3.5×10 <sup>-5</sup>	3.9×10 <sup>-5</sup>
	小型貨物車	1.5×10 <sup>-5</sup>	2.6×10 <sup>-5</sup>
	軽貨物車	1.1×10 <sup>-5</sup>	2.2×10 <sup>-5</sup>
	特種用途車	3.5×10 <sup>-5</sup>	3.5×10 <sup>-5</sup>
デ イ ゼ ル	乗用車	2.0×10 <sup>-6</sup>	7.0×10 <sup>-6</sup>
	バス	1.7×10 <sup>-5</sup>	2.5×10 <sup>-5</sup>
	普通貨物車	1.5×10 <sup>-5</sup>	1.4×10 <sup>-5</sup>
	小型貨物車	7.6×10 <sup>-6</sup>	0.9×10 <sup>-5</sup>
	特種用途車	1.3×10 <sup>-5</sup>	2.5×10 <sup>-5</sup>
廃棄物の 埋立処理場 [kg CH <sub>4</sub> /t]		食物くず	145
		紙くず又は繊維くず	143
		木くず	151

<地球温暖化係数>二酸化炭素を基準にして、他の温室効果ガスがどれだけ温暖化に影響を与えるかを表した係数。

二酸化炭素・・・1 / メタン・・・25 / 一酸化二窒素・・・298 / ハイドロフルオロカーボン・・・12～14,800 /  
パーフルオロカーボン・・・7,390～17,340 / 三ふっ化窒素・・・17,200 / 六ふっ化硫黄・・・22,800

<参考>

地球温暖化対策の推進に関する法律，地球温暖化対策の推進に関する法律施行令，

電気事業者別排出係数公表，エコアクション 21 地方公共団体向けガイドライン（2009 年版） 等

## （２）八千代市の一般廃棄物における廃プラスチック類割合の年度推移

廃プラスチック割合については、乾重量ベースでの割合を使用しています。また、温室効果ガスの算出には、５ヶ年の平均値を用いています。

表 11 廃プラスチック類割合の年度推移

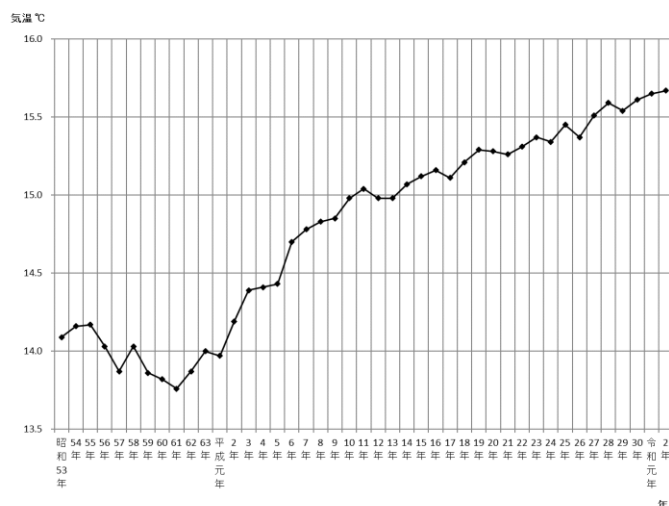
年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
廃プラスチック割合	0.348	0.287	0.296	0.309	0.359	0.370	0.332	0.380	0.272	0.311
５ヶ年平均					0.320	0.324	0.333	0.343	0.343	0.333

## （３）八千代市の気象

### ①八千代市の気温（移動平均 ※）の推移

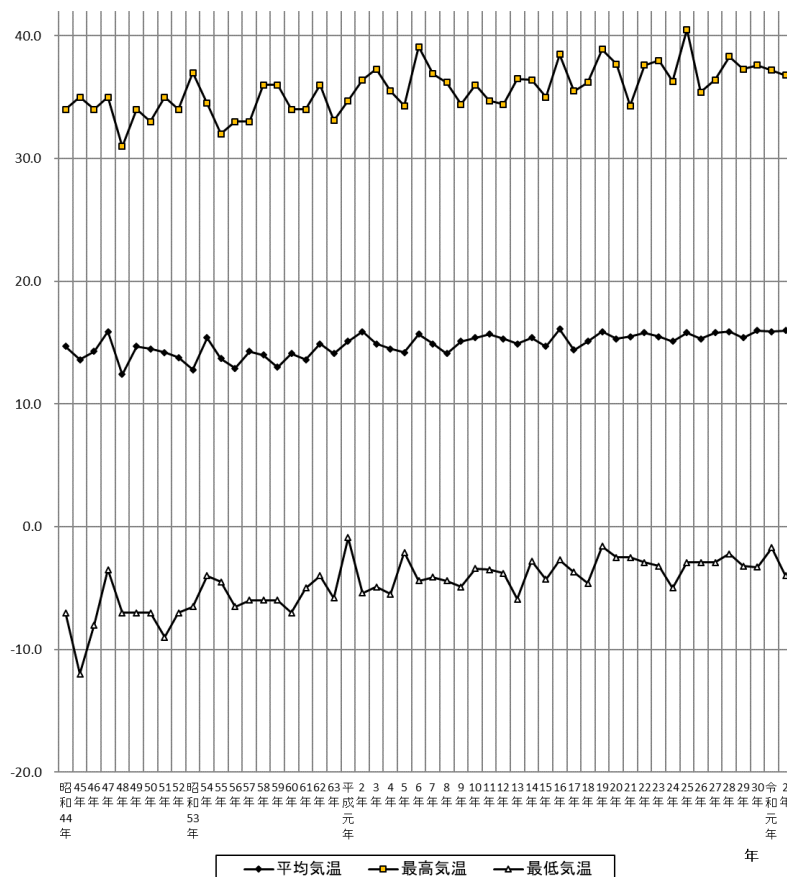
※ 移動平均

当該年と前 9 年間の平均気温の平均値  
(10 年間移動平均)



### ②各年における気温（平均，最高，最低）の推移

気温 ℃



(情報提供)

八千代市消防本部



#### （４）八千代市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）における 28 の取組項目

環境方針に則り、地球温暖化防止に向けた主に 28 項目の取り組みを中長期的に推進します。  
推進にあたっては、COOL CHOICE（クールチョイス）「賢い選択」＊運動を推奨します。

二酸化炭素の削減		
	○電気使用量の削減	①空調設備の適切な温度設定（冷房 28℃，暖房 20℃） ②ノー残業デーの推進 ③ウォームビズ・クールビズの推進 ④LED 照明の普及推進
	○用紙類使用量の削減	①会議資料の簡素化，印刷部数の適正化の徹底 ②ペーパーレス会議の推進
	○公用車燃料の削減	①九都県市指定の低公害車の導入 ②公用車台数の見直し ③スマートムーブの推進 （エコドライブ・公共交通機関・自転車の利用等） ④定期的な車両整備の実施
	○ガス・重油・灯油等の 使用量の削減	①施設を利用する市職員の意識向上及び市民への普及啓発 ②定期的な点検の実施
	○市職員及び施設管理者への省エネルギー活動の普及啓発	
	○里山整備等による森林吸収源の確保の推進	
	○市民・事業者向けの環境学習（講座）等の実施	
廃棄物の削減		
	○ごみの分別収集の推進 ○4 R（リデュース・リユース・リサイクル・リフューズ）の推進 ○廃棄用紙類の減量 ○給食における食品残さの減少	
水資源の節減		
	○日常的な節水の励行 ○水使用施設の適正管理	
グリーン購入・環境配慮契約の推進		
	○グリーン購入・環境配慮契約の周知徹底と推進 ○適正，適量調達	
化学物質の適正使用		
	○化学物質の使用量，保管量等の経時的な把握及び適切な記録・管理 ○定期的な有害物質保管用のタンク，パイプ等の保守・点検 ○有害物質の保管等にあたっての事故や災害時等の緊急事態を想定した，汚染防止のための対応や訓練の実施	
再生可能エネルギーの導入・利用と省エネルギー活動の推進		
	○施設の修繕・改修や新築時における，再生可能エネルギー・省エネルギー設備導入 ○市民・事業者向けの省エネ行動の情報提供	

＊COOL CHOICE（クールチョイス）「賢い選択」

平成 27 年 7 月 1 日から始まった新国民運動。

「2030 年度 26%削減」目標を達成するため、省エネ・低炭素型の  
製品／サービス／行動などあらゆる「賢い選択」を促す国民運動。



未来の  
ために、  
いま選ぼう。



### 3 地域の環境保全・創造に向けた取り組み

この章では、平成 29 年 3 月に一部内容を改定した「八千代市第 2 次環境保全計画」第 5 章で掲げられた主要施策に則した主な事業を紹介します。

#### ① 生物多様性の保全

八千代市の特徴的な自然である谷津・里山を市民、土地所有者、事業者、市が協働して保全・再生する事業を進めました。

項目	開催日	会場	参加者数
自然観察会「里山歩き」	令和 2 年 10 月 27 日	吉橋地区周辺	15 人
里山楽習会（里山シンポジウム）※	—	—	—
里山整備ボランティア人材育成講座 さとやまがっこう （里山楽校）	全 4 回 （11 月～3 月）	市役所及び 市内の谷津・里山 ほか	10 人

※新型コロナウイルス感染症 感染拡大防止のため実施無し



自然観察会「里山歩き」の様子



里山楽校の様子

#### ② 地球温暖化対策の推進

地球温暖化の原因物質の一つである二酸化炭素等の排出量を減らすため、省エネ・低炭素化に向けた施策を進めました。

一般家庭に対する省エネルギー設備設置費補助事業		
令和 2 年度住宅用省エネルギー設備等 設置費補助金	住宅用太陽光発電設備 38 件 家庭用燃料電池システム（エネファーム） 19 件 定置用リチウムイオン蓄電システム 51 件	
4 R の推進		
項目	内容	参加者数
ごみの減量化及びリサイクルに関する 学習会	開催回数：小学校 9 回	721 人
清掃センター施設見学会	開催回数：小学校 1 回、その他団体等 1 回	5 人
新川一斉清掃 ※	—	—
ゴミゼロ運動 ※	—	—

※新型コロナウイルス感染症 感染拡大防止のため実施無し

### ③ 地球環境にやさしい人づくり（環境学習）の推進

環境講座等の実施により、地球環境の保全に対する関心と理解を深め、地球環境にやさしい行動をする人づくりを推進します。

項目	開催日	会場	参加者数
親子印旛沼学習会 ※	—	—	—
子ども環境教室 ※	—	—	—
作品展「八千代の環境展」※	—	—	—
ほたるの里環境整備	令和2年7月11日 他6回	ほたるの里	93人*
ほたるの里 およこ生き物探検隊 ※	—	—	—
ほたるの里 親子で学ぶSDGs・ESD	令和2年8月1日	ほたるの里	14人
ほたるの里 研修会「チョウとガ」	令和3年3月20日	八千代市農業交流センター	12人

※新型コロナウイルス感染症 感染拡大防止のため実施無し

\* 延べ人数



ほたるの里 トンボ池付近

#### まとめ

「①生物多様性の保全」、「②地球温暖化対策の推進」及び「③地球環境にやさしい人づくり（環境学習）の推進」は、「八千代市第2次環境保全計画」において進める重点プロジェクトに位置付けられます。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症予防の為、中止となったイベントが多くありましたが、開催できたイベントでは、「谷津・里山や生物多様性の保全推進」、「地球温暖化防止の推進（節電・節水・省エネ）」及び「ごみ減量」に係る啓発を実施することができました。

### 第3章 代表者による全体の評価と見直し・指示

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言が発令されるなど、私たちの生活に多大な影響をもたらしました。日本全体では人口減少が進む中、本市の人口が20万人を突破する等成長を続けています。

本市は、環境への取組を自主的に行うため、取組を継続的に改善する手法として、環境省が策定した環境マネジメントシステムであるエコアクション21（以下、EA21とする。）を採用し、平成21年3月に認証・登録されました。EA21の認証・登録を受けてから、本庁舎をはじめ、支所、保育園、学校、消防本部及び上下水道局など全部署において環境への負荷を減らす取組を推進してきました。

平成21年3月の認証・登録から12年間の取組を経て、本市の環境保全に対する意識は高まり、各施策に「環境」への視点を取り入れるなど、環境保全行動が促進されました。

こうした取組の継続により、EA21審査においても、職員による環境配慮行動は十分に浸透し、成果が上がっていると評価され、EA21導入当初の目標である「環境意識の自覚と実践の確保」は一定程度達成できました。

また、環境マネジメントシステムに関するノウハウも蓄積されてきたことや、令和2年12月にゼロカーボンシティ宣言をした本市は、八千代市第2次環境保全計画の計画期間満了に伴い、「八千代市ゼロカーボンシティに関する行動指針」に示す脱炭素社会の実現に向けた取組を推進する次期計画へ移行することに鑑み、令和3年度以降は更新審査を受審せず、独自の環境マネジメントシステム（八千代市環境経営管理システム）で運用することとしました。

新たな環境マネジメントシステムへ移行後も、EA21ガイドラインに則り運用し、本市の環境行政の基本方針である第3次環境保全計画に掲げる将来像「人・まち・自然が調和した快適な暮らし 未来へつなげよう 持続可能な都市 八千代」を実現するため、本市の事務事業における自らの環境負荷低減と地域の環境保全に向けた取組を継続的に実施し、また、八千代市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）（第5次）の進捗管理を行い、環境施策の推進に努めてまいります。

令和4年2月22日      八千代市長      服 部 友 則